



経営(継承)のツボ

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

「いい会社をつくりましょう」

5月中旬、フェイスブック仲間からの誘いに便乗して長野県にある寒天食品加工メーカーの工場見学と社長講演「社員の幸せのための経営」を聞くための一泊二日の

「いい会社をつくりましょう」とは、どういうことなのか。社是の説明が記された雑誌の1節に目が留まった。

「いい会社」とは、社員が幸せになり、消費者も仕入れ先も取引先も地域の方々もいい会社だね」と

「掌を反す」

転期に立つ経営の視座⑤

ツアーに参加した。

直近の入社試験には、3000人が登録、1800人が受験、60倍の狭き門をくぐって新卒者が採用されたという。同社の社是は、「いい会社をつくりましょう」たくましくそしてやさしく」である。

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。「継承と人材創造塾」主宰。「介護ビジョン」編集委員。介護福祉教育マスター。著書に「99の言葉の杖」(日本医療企画)、「早川浩士の常在学場」(筒井書房)、「介護人材創造塾」(筒井書房)、「介護保険改正に勝つ!経営」(年友企画)、「データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望」(日本医療企画)など。

HP: <http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

あり得ないことを前提として、永続的であることを意味するものですよ*1。

いい会社をいい社会に置き換え、社会保障の一翼を担う介護事業者がたくましく、やさしく、つくりましょうと喧伝しても不思議なことではないと感じ入った。

まずは、いい会社をつくりましょうと足元を見つめながら、いい社会をつくりましょうとの呼びかけを地域に発信できる気概と自負を涵養しつづけることが大事ではないかとの思いを、異業種の見学ツアーに参加したことから振り返ることができた。

「いい社会をつくりましょう」

どの業界にもわが社ほど、いい会社はないと、自信ありげに語る経営者は少なからずいる。

だが、自信に満ち溢れた態度は、おごりたかぶって人を見くだすような傲慢さ、高慢さ、横柄さしか感じられないと嫌う人もいる。これらの対義語は、謙虚さ(自分を偉いものと思わず、素直に他に学ぶ気持があること)である。

傲慢な人を見るたびに、謙虚な

人でありたいと思う。いつから謙虚さを失ってしまったのだろうと悩むのではなく、人に接する態度や考え方が簡単に変わることを諭えた「掌を反す」ことを試してみることである。

慇懃無礼(表面上の態度は丁寧だが、心の中は尊大で相手を見下していること)、傲岸不遜(おごりたかぶって人を見下し、謙虚さがなく非常に思い上がった態度)、厚顔無恥(他人の迷惑などは一切かまわず、図々しく自分の都合だけを考え、主義主張を押し進める態度)、牽強付会(自分の都合のいいように、道理に合わなくても強引に理屈をこじつけること)、眼中無人(自分中心でまわりを無視した、おごり高ぶった振る舞い)、我田引水(他人のことは考えず、自分だけに都合のいいような言動をとること)などに諭えられる、相手のことを考えることもなく掌にする(思いのままに支配する)ような人が掌を反すようになれたら、いい会社をつくりましょうとの掛け声は地域に根付くはず。

『悪口を言われて我が身を正すことの出来る人間は幸せと言うべきだ』*2

*1: 月刊MOKU 2010年6月号「特集 人間の作法」から抜粋引用

*2: シェイクスピアの名言から